

新編集委員のご紹介

新しく『心理学ワールド』の編集委員となった7の方に、自己紹介や抱負を述べていただきました。



岡 隆 (おか たかし) 日本大学

社会的認知に関する実験的な研究を主にしていますが、研究領域、研究方法ともに、いろいろなものを吸収して研究の幅を広げていきたいと感じています。『心理学ワールド』での仕事を通して、いろいろな出会いのなかで、そうできればと期待しています。『心理学ワールド』も、心理学、学界に閉じこもることなく、開かれた広報誌として、さまざまな出会いの場となるように微力を尽くしたいと存じます。よろしく願っています。



大神優子 (おおがみ ゆうこ) 和洋女子大学

専門は認知心理学、発達心理学です。発話に伴う身振りの機能を皮切りに、院生時代と現所属(保育者養成)の関係で、色々と手を広げてきました。身振り産出時の脳活動から高齢者の記憶、保育者が気になる子まで……。編集委員のお話は青天の霹靂でしたが、皆様のお知恵を拝借しながら、学際的な学問としての心理学の面白さが伝わる誌面にできればと思っています。どうぞよろしく願っています。



小田浩一 (おだ こういち) 東京女子大学

感覚知覚、特に視覚が専門です。Low Vision といって眼鏡をかけてもなお日常行動に支障のある視覚の状態について、眼科や教育・福祉、デザイン関係の人たちと、現実的な問題と基礎的な問題の接点で精神物理学的な研究をするのが楽しい。見えにくい人のニーズの関係で字の視認性、読みの効率などに関係した研究が多いです。『心理学ワールド』では何か変わった企画ができるといいなと思います。



近藤清美 (こんどう きよみ) 北海道医療大学

子どもの発達を養育者との関係性、特にアタッチメントから捉えるというのが、私の専門です。サルの子育ての研究から始まり、ヒトの親子関係、そして今では、アタッチメント理論を意識しながら臨床も行なっています。心理学は幅広い学問です。うまく使えば実用的にもなりますが、危ういところもあります。サルに始まり臨床までの幅広い視点で、「ためになる」心理学を皆さまにお伝えする一端を担えればと思います。



杉若弘子 (すぎわか ひろこ) 同志社大学

ご縁あって編集委員に加えていただき光栄です。私の専門は臨床心理学、なかでも行動理論を基盤とする心理臨床とアナログ研究に取り組んでいます。学生として心理学を学び始めてから今日まで、五つの大学を渡り歩いてきた割には偏ったネットワークの中にいると感じています。この機会に、情報の受信者としては幅を広げ、しかし、やはり発信者としては少々偏りのある特集など提案してみたいと考えています。



時津裕子 (ときつ ゆうこ) 徳山大学

考古学者の鑑識技能への興味を足がかりにして心理学研究の道に入りましたが、近年、達人の「鑑識眼」だけでなく、自動車の運転から対人スキルまで、様々な領域の技能と学びのメカニズムに関心が広がってきています。自他の研究成果を活かして、私自身が何かの達人になりたいとも思っているのですが、やはり道はまだまだ遠いようです(ただし、土器はだいぶ分かるようになりました)。どうぞよろしく願っています。



林 創 (はやし はじめ) 岡山大学

いつも楽しく拝読しております本誌の編集委員を担当させていただくことになり、光栄に存じます。幼児期から児童期を中心に、道徳判断や欺き(うそ)など社会性の認知発達に関する研究を主として進めております。心理学は本当に楽しく素晴らしい、そして役立つ学問だと感じます。専門を超えてさまざまな話題を取り上げ、ますます楽しく充実した誌面になりますよう目指しますので、ご支援のほどよろしく願っています。

読者の声 投稿募集中! 『心理学ワールド』へのご意見・ご感想をお待ちしています。

○送付先 〒101-0051 千代田区神田神保町2-10 (株)新曜社 第一編集部 morimitsu@shin-yo-sha.co.jp

投稿は、お葉書・Eメールどちらでもけっこうです。世代と性別をあわせてお知らせください。